

心臓血管再生に成功

狭心症患者の骨髓細胞の一種を移植

信州大病院 国内2例目

信州大学医学部付属病院(松本市)の「先端心臓血管病センター」は12日、重い狭心症の患者に、患者自身の骨髓幹細胞から、血管のもとになる細胞(CD34陽性細胞)を分離採取して心臓に移植し、血管を再生する手術に成功したと発表した。合併症などはなく血流も改善され、患者は今日2日に退院した。池田宇一センター長は「(心臓血管の)バイパス手術が難しい患者さんには、福音と言ええる治療ではないか」と語っている。

信大によると、CD34陽性細胞を心臓へ移植する治療は、金沢大に次いで国内2例目。
これまで信大では、手足の血管が詰まり組織が死ぬ病気の治療で、手足へ自己骨髓細胞を移植したケースが17例あるが、患者数の多い狭心症や心筋梗塞への応用を目指し、3年前からサルを使った実験を繰り返してきた。
骨髓幹細胞には、血管の内皮になるCD34陽性細胞のほか、骨細胞や肝細胞になる細胞なども含まれる。骨髓幹細胞をそのまま移植

する方法もあるが、信大は、より安全で有効な方法として、CD34陽性細胞だけ移植する手術を行った。
患者は、糖尿病を患う県内の61歳男性。2003年5月に小さな心筋梗塞を起こし、検査入院。04年夏で

ろから胸部の不快感を訴え、右冠動脈など心臓の3つの動脈が詰まっていると診断され、うち一つはバイパス手術ができない状態だった。このため、9月1日に骨髓細胞移植を行った。患者の尻の骨から5-

リ・髌の骨髓液を採取、遠心分離法によって、5・3μmのCD34陽性細胞を分離・濃縮。胸を開いて心筋に直接注射し細胞を移植、血管再生に成功した。
今回採取したCD34陽性細胞の純度は、従来の約2倍の8割に達したという。
池田センター長は、今後症例を重ね、開胸せずに、手首からカテーテルで移植する方法も確立したい」としている。

リ・髌の骨髓液を採取、遠心分離法によって、5・3μmのCD34陽性細胞を分離・濃縮。胸を開いて心筋に直接注射し細胞を移植、血管再生に成功した。